

京三中・山城高同窓会 会誌

# 双ヶ丘



## 河合 美佳氏 略歴

山城高校第 36 回卒業。

京都市立芸術大学 大学院 修了。

現在、日本画家として活動。

日展所属。

京都日本画家協会会員。

京都市立芸術大学美術教育研究会会員。

『絵画教室 カワイ』主宰（日本画、水墨画、鉛筆デッサン、水彩画等を指導）。

## 表紙の作品『門』の紹介

1996 年秋に日展に入選した 150 号 (212cm×170cm) の日本画作品です。  
ご縁あって、昨春、山城高校へ寄贈させて頂きました。

この作品の門は、京都市北区の白梅町を北に上がった聖ヨゼフ整肢園の裏門に当たる所です。長い間、此処を何とか絵にしたいという想いを深めていました。家が近くということもあり、小さい頃から遊び場所としても慣れ親しんだ所。古びたレンガ造りの門柱や壁、建物は、物言わずとも、いつも温かみがあります。そんな門の向こうは、楽しい思い出がいっぱい。沸々とイメージが沸いてきます。

決して暗くならないよう……。地面の自転車の轍を誇張して、地に足の付いた人生観を反映したい……。

凝縮された色んな想いを、身体よりも何倍も大きな画面に向けて、全身全霊でもって、ただただガムシヤラに作品に取り組みました。特別な緊張感と体感が、私を虜にしてやまないといった感じでしょうか。そして今も、この制作の姿勢はその頃と同じ。もちろんこれからも、日々精進して励んでいきたいと思います。

寄贈作品は、山城高校本館一階に飾って頂いています。機会がありましたら是非見てください。

## 学校だより



### 「進化し続ける伝統校」

校長 前島 巖

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育に御理解・御支援をいただき、心より感謝申し上げます。

平成 26 年度、京都市・乙訓地域における公立高等学校の教育制度は大きく変わります。特に、平成 26 年度入学者選抜においては、(1)普通科の類・類型制度を廃止し、「普通科」に一本化、(2)南北通学圏を 1 つに統合、(3)複数の受験機会を確保、(4)総合選抜制度を廃止し、単独選抜制度を導入、といった大きな変更になります。特に、この(4)の変更により、これまでいわゆるバス停方式によって入学校が決まっていた制度が廃止され、京都市・乙訓地域内の高校であれば、どの高校にでも出願できるようになりました。中学生にとっては、通いたい高校を自らの希望で選ぶ制度となりました。一方、「選ばれる」側の高校は、夢や希望をかなえられる魅力ある特色づくりをさらに進め、併せてその特色をよりよく理解してもらえるように努めることがますます大切になっています。

本校では、現在、グローバル社会で活躍できる力を育み、将来、様々な分野で社会に貢献する人間を育成することを学校の社会的使命であると捉えて教育を実践しています。また、世界中の人が通いたい理想的な世界規準の高校をめざし、将来の進路を見通したハイレベルな「文武両道」を極める生徒を育てていきたいと考えています。

現在、全校生の 86% が、学習と部活動との両立をめざして汗を流しています。今年度は、弓道部の富田浩樹さんが全国高等学校弓道選抜大会に男子個人で出場しました。放送部も NHK 杯全国高校放送コンテストに出場しました。また、8 月には高校ダンス部の日本一を決める第 6 回日本高校ダンス部選手権が横浜で行

われ、スモールクラス（9人以下）において、山城高校ダンス部が優秀賞（実質3位）を受賞しました。さらに、男子バスケットボール部は、第60回近畿高等学校バスケットボール選手権大会において準優勝に輝きました。また、同部の新谷大樹さんと中川祐太さんの2名が国民体育大会バスケットボール少年男子京都代表に選ばれました。

山城高校は、明治40年の創立以来、これまでに3万5千人を超える卒業生を輩出してきました。現在は、明るいデザインの校舎や体育施設にも恵まれ、専門学科「文理総合科」の設置や普通科の改編等を通じて、新しい教育実践「山城高校アカデミックプロジェクト」に取り組んでいます。

このプロジェクトが評価され、京都府教育委員会の「アカデミックネットワーク京都」の研究指定を受けました。その取組として実施された論文コンテスト「世界の中の日本」において、本校1年生黒田柚生さんの「京都が誇る“京町家”の可能性」が最優秀賞、田中碧人さんの「技術の進化がもたらす影響とこれからの進化」が優秀賞に輝き、教育長から表彰されました（写真）。

山城高校には、学校を愛する心、伝統を大切に作る心と共に、新しい道を切り開いていくパイオニア精神が息づいています。この精神は「山城スピリット」として現役生徒の間にも脈々と受け継がれています。本校は、自主・自立・共生の精神を育ててきた学校であり、百年の歴史を超えてまさに進化し続ける伝統校です。この伝統は、これからも受け継いでいかなければならない学校の大切な価値であると考えています。山城高校に入学したら、生徒一人ひとりが「チーム山城」の一員として成長し、生涯にわたって「山城」の絆でつながっていく学校であり続けたいと思います。

同窓生の皆さまにおかれましては、ますますの御発展をお祈り申し上げますとともに、これからも「チーム山城」への御支援をよろしくお願いいたします。



教育長から表彰されました。

## 弓道部紹介

弓道部顧問一同

弓道部の近況をご報告いたします。

平成25年度の部員数は男子15名、女子30名、計45名です。学校全体の中で、およそ1クラス分に相当する人数の生徒が弓道部員です。非常に限られた施設の中で、日々練習に励んでおります。また平成21年度以来、引き続き外部指導者として川口妙子先生にお越しいただき、ご指導いただいております。川口先生のご指導から学ぶことは非常に多く、その成果が試合等の成績に表れています。

平成25年度の活動実績のうち、主なものは次のとおりです。（敬称略）

7月 第66回近畿高等学校弓道大会

- ・女子団体競技の部に3年生の今堀桃花、高林千愛子、田口千裕、
- ・男子団体競技の部に3年生の吉田歩、2年生の荒尾和幸、内海碧人、奥山湧太、鍋割大輝が出場。

12月 第32回全国高等学校弓道選抜大会

- ・2年生の富田浩樹が男子個人の部に出場。

2月 京都府公立高等学校弓道大会

- ・男子団体の部で2年生の内海碧人・富田浩樹・鍋割大輝のチームが優勝。
- ・男子個人の部で2年生の内海碧人が3位入賞、1年生の東谷隆誠が4位入賞、2年生の富田浩樹が5位入賞。

生徒が今後も練習に励み、技術向上だけでなく、弓道を志す者として成長してくれることを願っています。



表敬訪問



## ダンス部紹介

優秀賞を受賞して

ダンス部顧問

安野留三子

「出場 NO. 7 京都府立山城高等学校。」

「えっ、僕ら、ほんま？」

日本高校ダンス部選手権 DANCE STADIUM 全国決勝大会でのスモールクラス優秀賞受賞の瞬間である。ダンスに情熱を燃やした自身の大学時代と重なり、思わず熱いものが込み上げてきた。ダンスの演技は、動きや踊りの技術だけでなく動きの構成・衣装・音響・照明が関わって1つの作品として鑑賞される。作品にはテーマがあり、作品を通して訴えたい主題が伝わった時に初めて観客に感動を与える。中学校で昨年より体育の授業の中にダンスが必修化され、高校に於いても今年度からダンス授業を選択できるようになった。今回、優秀賞を受賞した5名は、ダンス授業を選択しており、センスある動きが即興で実践できる。また、ダンスで巧緻性が養われていると実感した。近畿・中国・四国地区予選会で、全国大会出場を獲得してからも更なる創作意欲を発揮し、予選会での反省を基に作品の手直しを繰り返し行い、時間を惜しんで躍り込みを続けた。法被の襟に「祇園笑舎」「山城高校」と描いたオリジナルの法被を衣装に京都をイメージして演技をした。踊りの展開の早さと絶妙な間合いが見せ場であり、演技者個々のスキルに見合った良さを上手く演出し、大きなミスなく踊り切れたのが今回の優秀賞受賞の要因と振り返る。

全国決勝大会の会場である横浜国立大ホールまで、保護者の方やダンス部の卒業生が応援に駆けつけてくださり、大きな力となったことは言うまでもない。また、優秀賞受賞にあたり、学校、PTA から立派な祝勝横断幕を掲げていただき感謝の気持ちで一杯である。

現在、部員は、51名。今回の受賞に驕ることなく、人の心を打つダンスで地道に創作活動を続けていきたい。

